

文化庁選定「歴史の道百選」追加選定一覧物件

79

名称：様似山道・猿留山道

選定箇所：冬島～幌満（北海道様似町）、庶野～目黒（えりも町）

概要：北方警備のため、断崖絶壁が続く海岸線の迂回路として、寛政11年（1799）に江戸幕府が蝦夷地で初めて開削した山道である。様似山道の途中には旅籠跡が、猿留山道の峠には石碑が残り、当時の往来の様子を窺うことができる。一部が史跡「様似山道」「猿留山道」に指定されている。



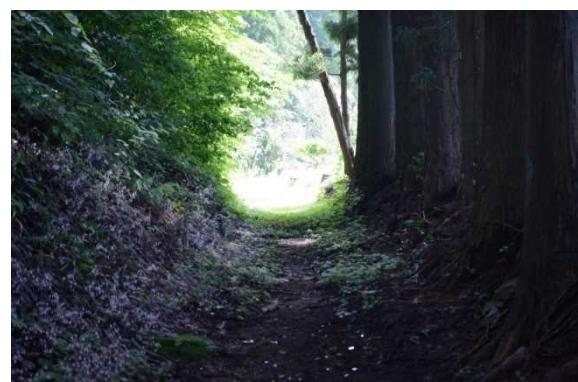
【写真提供：えりも町教育委員会】

80

名称：久慈・野田街道

選定箇所：野田（岩手県野田村）、平庭峠（久慈市）、黒森峠（葛巻町）

概要：野田海岸で生産された塩を牛の背に乗せ遠く内陸へ運んだことから通称「塩の道」または「塩ベコの道」と呼ばれている。塩は内陸の盛岡や鹿角地方へ運ばれ、米などと交換された。街道沿いには「合戦場の一里塚（久慈市指定史跡）」や「奥清水のベコ泊り場」、牛方に関する風習として「牛の角突き（久慈市指定無形民俗文化財）」など塩の道に関する文化財が数多く残されている。



【写真提供：野田村教育委員会】

8 1

名称：浜街道
はまかいどう

選定箇所：真木沢（真木沢一里塚）～田野畠（キリップセ一里塚）（岩手県田野畠村）、鯨道（大槌町）、鳥谷坂、女坂、石塚峠（釜石市）、鍬台峠（釜石市～大船渡市）、白木沢一里塚周辺、釣魚峠（大船渡市）、通岡峠（大船渡市～陸前高田市）、松ノ坂峠（陸前高田市）

概要：宮城県気仙沼市から三陸沿岸の各地を縦断し青森県八戸市に至る街道で、仙台領から釜石市石塚峠以北の盛岡領を経て、久慈市以北の八戸領を結ぶ古道である。近世では「海辺道」「浜南部道」などとも呼ばれていた。三陸海岸の地形は、主に宮古以南が鋸の歯のように入り組んだリアス式海岸で、以北は主に海岸段丘が発達し断崖絶壁が多い。そのため街道は南では峠越え、北では坂越え、谷越えと多様な様相を見せる。



【写真提供：大船渡市教育委員会】

8 2

名称：仙北街道
せんぽくかいどう

選定箇所：下嵐江（岩手県奥州市）～手倉御番所跡（秋田県東成瀬村）

概要： 岩手県南側と秋田県とを結ぶ重要な道で、江戸時代初めに幕府へ提出された正保国絵図では、同区間の道としては仙北街道のみが記されている。手倉には番所が置かれ、横手城から藩士が出向いていた。岩手県側では「仙北道」「手倉越」、秋田県側では「仙台道」「水沢道」などとも呼ばれていた。



【写真提供：佐々木孝男氏】

8 3

名称： 陸奥上街道

選定箇所：真柴～萩莊（岩手県一関市）

概要：奥州街道一関から岩出山（現宮城県大崎市）を結ぶ街道であり、一関市

では迫街道と呼ばれている。松尾

芭蕉に隨行した河合曾良の『奥の
細道曾良隨行日記』には、元禄2
年（1689）5月14日に一関
を出発し、岩ヶ崎を経て岩出山に
宿泊したことが書かれており、そ
の際に通ったのが陸奥上街道と考
えられている。街道沿いには、「迫
街道一里塚」（一関市指定史跡）が
残り、当時の様子をうかがうことができる。未舗装分の一部は地元の保存会
により環境整備が行われている。



【写真提供：一関市教育委員会】

（追） 2

名称： 奥州街道一蓑ヶ坂・長坂・高山越・浪打峠・ヨノ坂越

選定箇所：浪打峠～一戸～白子坂～ヨノ坂～摺糠（岩手県一戸町）～御堂・馬羽
松一里塚（一戸町・岩手町）～御堂観音（岩手町）

概要：江戸日本橋を起点に津軽半島の外ヶ
浜（青森県外ヶ浜町）へ至る日本最長の
街道で、江戸時代の幹線道路の五街道の
一つである。白河以北は各藩の管理下に
おかれたため、統一的な名称はない。今
回追加する区間は、現国道が奥州街道と
別ルートに設置されたことにより、街道
と一里塚が保存されている一戸町～岩手
町までの区間で、一部が史跡「奥州街
道」に指定されている。



【写真提供：一戸町教育委員会】

(追) 4

名称： 鹿角・南部街道—梨ノ木峠越・車之走り峠越

選定箇所：荒屋新町、車之走り峠（岩手県八幡平市）

概要：奥州街道の脇街道の一つで、盛

岡城下から荒屋・田山（八幡平市）
を経て鹿角（秋田県鹿角市）に至
り、秋田県大館市に至る。鹿角郡に
おいて 17 世紀初頭以降、金山開発
が興ったことを契機として整備さ
れ、その後も尾去沢銅山と城下を結
ぶ銅の道として、盛岡藩の財政を支
えた重要な街道であった。今回追加
する区間は、既選定の梨ノ木峠以東
の荒屋新町及び七時雨山の車之走り峠を越える箇所で、車之走り峠は鹿角街
道の難所の一つであった。



【写真提供：八幡平市】

(追) 6

名称：北国街道—三崎山越

選定箇所：旧大師堂（三崎神社）～駒泣
かせ（山形県遊佐町）

概要：秋田県と山形県をつなぐ重要な
街道で「秋田街道」「酒田街道」とも
呼ばれた。観音、大師、不動の三つの
岬からその名がある三崎山は北国街
道の難所であった。三崎山全山タブ
林で蔽われ、昼なお暗いタブの巨木
の景観は、往時を彷彿とさせる。今回
は、『おくのほそ道』でも芭蕉と曾良が通り、曾良の隨行日記に「是ヨリ難所、
馬足不通」と記された三崎山越の山形県側を選定する。



【写真提供：遊佐町教育委員会】

8 4

名称：会津・米沢街道—桧原峠越
あいづ よねざわかいどう ひばらとうげごえ

選定箇所：桧原峠～大塩～関屋（福島県北塩原村）

概要：会津藩内本街道五筋の一つ

で、会津若松から米沢までの約56 kmを結ぶ。戦国時代にも蘆名氏領の会津から伊達氏領の米沢までの往来として利用されていた。大塩宿は江戸時代に塩泉を使用した「山塩」づくりが盛んであったことで有名である。桧原宿は、明治21年の磐梯山水蒸気爆



【写真提供：北塩原村教育委員会】

発による桧原湖形成の際に水没し、災害とその後の復興を物語る道でもある。

8 5

名称：白河・会津街道
しらかわ あいづかいどう

選定箇所：大町一之町の札の辻（福島県会津若松市）～黒森峠（会津若松市・郡山市）～勢至堂峠（郡山市・須賀川市）～早坂峠（須賀川市・天栄村）～手招坂（天栄村）～上小屋宿～女石（白河市）

概要：会津若松城下の大町一之町から白河城下の奥州街道との分岐点「女石」にいたる約66 kmの街道である。豊臣秀吉による奥羽仕置に際して、伊達政宗が白河から会津までの工事を担当し、道や宿駅が整備された。その後、



【写真提供：会津若松市教育委員会】

17世紀前半に会津藩主加藤嘉明により行路が変更された。江戸と会津・越後方面を結ぶ交通路として、参勤交代や米などの物資輸送にも利用された。

(追) 15

名称：佐渡路—会津街道・鳥井峠・車峠・東松峠・滝沢峠越

選定箇所：鳥井峠～車峠～東松峠（福島県西会津町）

概要：日本海側と内陸側との往来に

欠かせない街道で、野沢宿のほか上野尻宿、下野尻宿、白坂宿、宝川宿等の宿場や軽沢等の間宿があり、賑わいを見せていた。今回、越後国境の鳥井峠から会津盆地近くの東松峠までの区間を追加する。



【写真提供：西会津町教育委員会】

86

名称：南郷道

選定箇所：盛金峠、館、和田（茨城県常陸大宮市）

概要：水戸を起点として、瓜連、大宮、大子を経て、南郷地域（福島県矢祭町・棚倉町周辺）に向かう脇往還である。その起源は南北朝期まで遡ることができ、軍事的な幹線道路として機能した。江戸時代に街道として整備され、久慈川の舟運の発達とともに、物資の輸送にも大きな役割を果した。



【写真提供：常陸大宮市教育委員会】

(追) 17

名称：下野街道（会津中街道・会津西街道）
しもつけかいどう　あいづなかかいどう　あいづにしかいどう

選定箇所：大峠～三斗小屋宿～板室（栃木県那須塩原市）、上三依、五十里湖～高原新田宿～藤原（日光市）

概要：会津西街道は奥州道中今市宿から会津若松城下をつなぐ街道で、福島県側では下野街道とも呼ばれる。山地を通過しているので難所が多く、江戸時代末期には栃久保新道と呼ばれる迂回路が開削された。主要街道として現在も利用されていることから改修が進んでいるが、今回追加する会津西街道は、迂回路の開削により、古道が残された箇所である。



会津中街道は天和3年（1683）に日光地震で通行不能になった会津西街道の代替道として元禄8年（1695）に開通した街道で、会津西街道が復旧した後もそのまま使用され続けていた。

87

名称：利根運河
とねうんが

選定箇所：深井新田～上利根（千葉県野田市・流山市・柏市）

概要：利根川と江戸川を結ぶ運河で、

明治23年に開削された。開通後は昭和16年の大洪水によって打撃を受けるまでの約50年間に約100万隻の船が往来し、当時の物流に大きく貢献した。昭和16年以降は利根川・江戸川の水量を調節する役割を担い、現在は運河及び周辺の自然を活かした憩いの場として活用されている。



【写真提供：流山市教育委員会】

8 8

名称：西五十里道・鶴子道
にしこい か ごりみち つるしみら

選定箇所：鶴子～鶴子銀山跡～上相川（新潟県佐渡市）

概要：中近世における鶴子銀山の開発に伴い、真

野湾の沢根五十里港から鉱山集落・銀山までの間に整備されたと考えられる主要な幹線道路で、後の相川金銀山の発見と鉱山集落の形成（上相川）により、鶴子銀山～上相川間が延長されたと想定される。比較的傾斜のゆるやかな相川道（相川～小木間の往還）が整備された後は、主要な幹線道路ではなくなったが、江戸時代後期には鶴子銀山の弥十郎間歩と相川を結ぶ道路として機能した。



【写真提供：佐渡市】

8 9

名称：会津街道一六十里越
あいづかいどう ろくじゅうりごえ

選定箇所：穴沢、細野（三茶峠）、大倉沢、三渕沢、東中、下倉、田戸（新潟県魚沼市）

概要：魚沼地方と奥会津地方を結ぶ街道で、中世には軍用道路として利用された。

近世になると、暮らしの道として日用雑貨類や綿布などが運ばれたほか、「越後縮」の原料として奥会津で生産された青苧が六十里越を通って小出・堀之内に卸された。堀之内で三国街道と別れ、破間川沿いに上流へ向かい、大白川新田から浅草岳の南側鞍部を越えて福島県南会津郡只見町に通じる県境の峠道をいう。



【写真提供：魚沼市教育委員会】

(追) 20

名称：佐渡路—三国街道

選定箇所：栃原峠（新潟県魚沼市）

概要：日本海側と太平洋側を結ぶ主要な街道の一つで、幕府の佐渡金山の開発に伴って整備が進められた。堀之内は水陸交通の要衝に位置し、慶長年間（1596～1615）には三国街道の宿場となった。魚野川の水運が盛んになるに伴い商業化が進み、十日町や小千谷と共に縮市が開かれた。堀之内～浦佐



【写真提供：魚沼市教育委員会】

間を走る栃原峠は寛永年間（1624～1643）に開削され、魚野川を渡る必要がない最短の街道として整備された。今回は既選定箇所の北側を追加する。

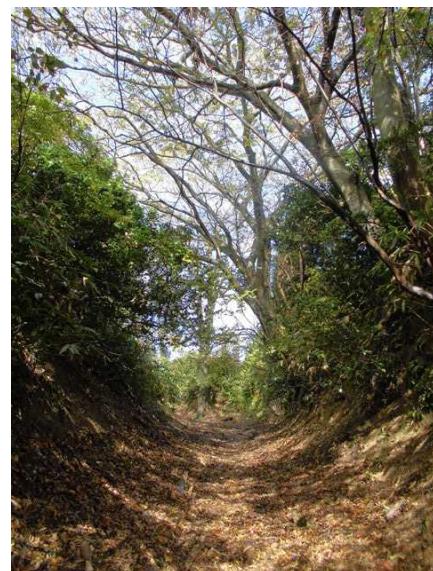
90

名称：田近越・小原越・二俣越（朴坂越・三ノ坂越）

選定箇所：田近越一八講田、八講田～五郎丸～八伏～一乗寺城跡（富山県小矢部市）～字南横根～字常德、字常德（石川県津幡町）～琴町、北千石町（石川県金沢市）

小原越一五郎丸～内山（富山県小矢部市）～松根城跡～竹又町、竹又町～堀切町、桐山町～切山城跡（石川県金沢市）

二俣越一坂本～朴坂峠～小又（富山



小原越（富山県）

県南砺市)、荒山町～荒山城跡～二俣町、二俣町～不室町～高峠城跡～釣部町～牧町～伝燈寺町～夕日寺町～御所町～山王町（石川県金沢市）

概要：越中国と加賀国を結ぶ道で、中世に遡る道である。交通の要衝であり、道筋に山城が対峙するように築かれ、天正12～13年（1584～1585）の前田利家と佐々成政による加越国境の攻防の緊張を伝える。小原越では堀切が切断する戦時封鎖が確認されており、一部が史跡「加越国境城跡群及び道」に指定されている。



小原越（石川県）

9.1

名称：青梅街道

選定箇所：大菩薩峠～勝縁荘、上日川峠～千石茶屋（山梨県甲州市）

概要：江戸時代初期、江戸城建築用に西多摩地方の石灰を運搬するために武藏野を東西に貫いて開かれた街道。新宿追分を起点として甲州街道と分かれ、青梅市・大菩薩峠・甲州市を経て、甲府市酒折で再び甲州街道に合流する。甲州裏街道ともいった。



【写真提供：甲州市教育委員会】

9 2

名称：甲州街道—こうしゅうかいどう 笹子峠ささごとうげごえ

選定箇所：笹子峠（山梨県大月市・甲州市）

概要：江戸時代の五街道の一つで、

江戸日本橋を起点とし、内藤新宿を経て甲府に至り、さらに下諏訪で中山道に合流する。笹子峠は甲州街道の第一の難所とされた峠で、この峠を境として甲斐国（現山梨県）の東部の郡内地方と中西部の国中地方とに区別される。この区間には、

山梨県指定天然記念物「笹子峠の矢立のスギ」や茶屋跡、明治天皇巡幸の折に休憩をした野立跡が残り、舗装整備された県道から外れて往時の状況が良好に残されている。



9 3

名称：みのぶ道みち

選定箇所：身延山周辺（山梨県身延町）、七面山周辺（山梨県身延町・早川町）、真篠城周辺（山梨県南部町）、馬坂峠（静岡県富士市）、関屋峠（静岡県静岡市）

概要：駿河国から日蓮宗総本山身延山久遠寺を経て、

甲府へ至る全長約80kmの道である。駿河からは岩淵（静岡県富士市）から富士川沿いを行く道と興津（静岡市清水区）から北上する道があり、山梨県南部町万沢で合流する。戦国時代は甲斐の武田氏をはじめ軍用路として利用され、近世には「身延詣」のため、多くの人々が往来する信仰の道と



みのぶ道（馬坂峠）（静岡県）



みのぶ道（山梨県）

もなった。近代においても、日蓮宗等の宗派は、身延山・七面山登拝行を必須の修行としており、往時の信仰活動を今日に伝えている。

9 4

名称：戸隠道とがくしみち

選定箇所：善光寺～湯福神社、善光寺～静松寺、荒安～一ノ鳥居～大久保の茶屋～戸隠神社火之御子社～戸隠神社中社～戸隠神社奥社、地蔵堂～戸隠神社宝光社～戸隠神社中社、種池周辺、女人結界石周辺（長野市）

概要：戸隠神社（近世までは戸隠山顕光寺）につながる道の総称である。修験者が靈場・戸隠山へ向かう道として開かれ、やがて一般大衆の参詣が増えるにつれ、複数の道筋が整備されたと考えられる。代表的な道は善光寺から戸隠神社中社までの表参道で、大きく三筋がある。主な分岐点には道標が置かれ、一ノ鳥居からは丁石も設置されている。参詣道のみならず山間の流通路としても大きな役割を果した。



【写真提供：長野市教育委員会】

9 5

名称：北国脇往還（善光寺道）ほっこくわきおうかん　ぜんこうじみち

選定箇所：善光寺宿、丹波島宿（長野県長野市）、稻荷山、猿ヶ馬場峠（千曲市・麻績村）、麻績（麻績村）、青柳宿（麻績村・筑北村）、立峠（筑北村・松本市）、会田宿、刈谷原峠（松本市）、郷原宿（塩尻市）

概要：中山道と北国街道を結ぶ輸送路で、善光寺への参詣道としても利用された。戦国時代には刈谷原、会田、青柳、麻績等で宿場が作られた。慶長19年（1614）、松本城主の小笠原秀政によって中山道と麻績との間で宿駅制度が整

備され、猿ヶ馬場峠を越えて桑原（千曲市）や稻荷山と結ばれたことで、北国脇往還が成立した。洗馬（塩尻市）から善光寺へは約80kmの道のりで12（間の宿を含めると17）の宿場が設けられている。本陣や石仏等、往時の状況が良好に残されている。



【写真提供：千曲市教育委員会】

(追) 31

名称：松本・千国街道及び東回り古道

選定箇所：松本・千国街道一角間池下～大網峠～横川吊り橋～大網宿、大網にか

い、葛葉峠、猫鼻～湯原～天神道～塩坂～島、沢入、石坂～池原～
下里瀬、下里瀬～虫尾、虫尾～和平～雨中、三夜坂、千国宿横水、
親坂～沓掛（長野県小谷村）、落倉～切久保 おかるの穴、切久保～
新田（観音原付近）、佐野坂（白馬村）、佐野坂～エビスマ原、青木
～中網、西海ノ口（大町市）、養老坂（松本市）
東回り古道一戸土～角間池～栗峠～横川、鳥越峠越え、長者平～大
峠～地蔵峠入口、深原～埋橋～中谷、長崎～大峠～土谷（小谷村）

概要：越後の糸魚川と信濃の松本を結ぶ街道で、日本海側からは海産物が、信濃側からは農作物が運ばれた。特に「塩の道」として古くから利用され、戦国時代には「敵に塩を送る」の故事を生んだ重要な道であった。東回り古道は古代の官道の峠を意味する「三坂峠」などがあり、畿内から北陸道を経由し信州へ入ってくる重要



東回り古道 高町越

【写真提供：小谷村教育委員会】

な道で、近世以降は主街道の迂回路として大きな役割を果たした。

(追) 40

名称：中山道一信濃路

選定箇所：笠取峠下、長久保宿、四泊一里塚跡、落合橋周辺（長野県長和町）

概要：江戸時代の五街道の一つ。江戸日本橋から板橋、大宮、高崎を経て、軽井沢、下諏訪、馬籠、加納、守山などを通って草津で東海道に合流する。笠取峠の直下には旧道が残り、本陣、問屋、旅籠等の建物が点在する長久保宿も舗装道路ながら当時の道筋を保っている。



【写真提供：長和町教育委員会】

(追) 42

名称：中山道一東美濃路

選定箇所：馬籠峠～新茶屋（岐阜県中津川市）

概要：馬籠峠から新茶屋にかけての区間を追加する。同区間は標高差約310mで、その間に馬籠宿が存在する。馬籠宿は傾斜地に設置され、宿場内の民家は石垣を築いて屋敷地を確保していた。馬籠宿から西に向かい、新茶屋の手前に差し掛かると、正面に中津川市街が一望でき、貝原益軒の『岐蘇路記』にも記されている江戸時代の情景と変わらない景観が残されている。



【写真提供：中津川市】

(追) 28

名称：東海道一箱根旧街道・湯坂道・西坂・宇津ノ谷峠越
とうかいどう はこねきゅうかいどう ゆさかみち にしざか うつのやとうげごえ

選定箇所：宇津ノ谷（静岡県静岡市）～坂下（藤枝市）

概要：宇津ノ谷峠を越え静岡市宇津谷へ

通じる古道は、江戸時代の東海道として多くの旅人が通行した幹線道路である。絵図や紀行文、歌舞伎など文学・美術の題材となり、歌枕の地として全国に知られる街道の名所であった。歌物語『伊勢物語』や紀行文『東関紀行』には、「薦の生い茂る寂しい山道「薦の細道（呼称の定着は江戸時代以降）」として記されているが、豊臣秀吉が小田原攻めの際に拡幅整備したとされている。宇津ノ谷峠越の一部は史跡「東海道宇津ノ谷峠越」に指定されている。



96

名称：信州飯田街道
しんしゅういいだかいどう

選定箇所：雨沢峠～坂瀬坂、上品野町、品野町（愛知県瀬戸市）

概要：近世中山道・下街道の脇往還と

して東濃地区と瀬戸・名古屋を結び、信州や東濃から陶磁器・煙草・木地椀・紙など、名古屋や海浜部からは塩・茶・魚・醤油などが運ばれた。この街道沿いでも、上品野や下品野では馬継地となり、いわゆる中馬が盛んに行われ、明治期以降「中馬街道」とも呼ばれていた。馬子唄に唄われた急坂難所の坂瀬坂から国境の雨沢峠に至る道は往時の状況を良好に残す部分もみられる。



【写真提供：瀬戸市文化課】

(追) 48

名称：くまのさんけいみち 熊野参詣道—伊勢路

選定箇所：女鬼峠—成川～相鹿瀬（三重県多気町）、三瀬坂峠道—三瀬川～滝原（大紀町）、ツヅラト峠道—大内山志子谷～島原（大紀町・紀北町）、荷坂峠道—東長島、三浦峠道（熊ヶ谷道）—道瀬～三浦、始神峠道—三浦～馬瀬（紀北町）、三木峠道・羽後峠道—木里町～賀田町（尾鷲市）、曾根次郎坂・太郎坂—曾根町～二木島町（尾鷲市・熊野市）、二木島峠道・逢神坂峠道—二木島町～新鹿町（熊野市）、波田須の道—波田須町、大吹峠道—西波田須町～大泊町、觀音道—大泊町、松本峠道—大泊町～木本町（熊野市）、横垣峠道—神木～阪本（御浜町）、風伝峠道—栗須～矢の川（御浜町・熊野市）、本宮道—矢の川、小川口～小栗須、小栗須～湯の口、湯の口～大河内、楊枝川（熊野市）、七里御浜—井戸町～紀宝町鵜殿（熊野市）

概要：熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社は「熊野三山」と呼ばれ、中世から多くの参詣者が詣でた。紀伊半島西岸を通る紀伊路、東岸を通る伊勢路、高野山と熊野三山を結ぶ小辺路に大別される。伊勢路は、特に江戸時代以降、伊勢参宮を終えた旅人や、西国三十三カ所めぐりの巡礼たちが利用した道である。それぞれ一部が史跡「熊野参詣道」に指定され、中辺路、大辺路、小辺路、伊勢路は、世界文化遺産「紀伊山地の靈場と参詣道」の構成資産である。



9 7

名称：保津川水運
ほづがわすいいうん

選定箇所：嵯峨～山本～保津～宇津根（京都府京都市・亀岡市）

概要：古代から丹波国と京都を結ぶ

重要な材木輸送路である。江戸時代に角倉了以の開削によって舟運による物資輸送が可能となった。

近代には嵐山までの遊船へと転換し、流通・往来の舞台として今日まで利用されている。



【写真提供：京都市】

9 8

名称：山陰道一唐櫃越・老ノ坂
さんいんどう からとごえ おいのさか

選定箇所：下園尾町（京都府京都市）～篠町山本（亀岡市）、老ノ坂～篠町王子（亀岡市）

概要：唐櫃越は中世から丹波国と京都を結ぶ幹線道路であり、『太平記』にも登場する。如意寺、葉室山淨住寺など、古刹が数多くあり、往時の状況を良好にとどめている。老ノ坂はかつて足利尊氏や明智光秀も通った道とされ、貝原益軒の『西北紀行』でも景勝地として記される。首塚大明神や山陰道の道標が今も残る。



老ノ坂

【写真提供：亀岡市】

(追) 49

名称：宮津街道—今普甲道・元普甲道

選定箇所：毛原峠（京都府福知山市）

概要：大江と宮津を結ぶ大江山越の

主要ルートであり、江戸時代初期に宮津街道（今普甲道）が整備されると旧道は元普甲道と呼ばれるようになった。今回、元普甲道のうち毛原峠を追加する。



【写真提供：福知山市】

(追) 47

名称：伊勢本街道—飼坂峠越

選定箇所：室生黒岩～室生田口元上田口、中垣内～榛原高井（奈良県宇陀市）

概要：大和国と伊勢国を最短距離で結ぶ街道である。急峻な山道が続いたため、参勤交代には使用されなかつたが、近世に庶民の間で流行した伊勢参詣に利用された。今回は、既選定に接続する箇所を追加する。



【写真提供：宇陀市教育委員会】

99

名称：葛城修験の道

選定箇所：行者杉（和歌山県橋本市）～蔵王峠（かつらぎ町）～葛城山頂～神通
～粉河寺・松峠～土仏峠（紀の川市）～根来寺・押川付近、槌ノ子峠（岩出市）
～懺法ヶ嶽～孝子峠～舟着場、友ヶ島（沖ノ島・虎島）（和歌山市）

概要：紀伊・和泉・河内・大和の4か国
に跨る葛城山系は、役小角（役行者）
の所縁から古代より修験の聖地とし
て尊崇されていた。その役行者が法華
経八巻二十八品を埋納したとされる
経塚を「葛城二十八宿」とし、行場・
拝所・宿所等を設け、また関係寺院を
含めて修行の場としている。これらを
繋ぐ道は、近世には聖護院、三宝院両門跡をはじめとして多くの修験者が入峯
するようになり、今も修業の場として使用されている。



100

名称：古座街道

選定箇所：潤野、一雨～相瀬、長追（和歌山県古座川町）～佐本根倉、佐本中、

法師峠（すさみ町）、宇津木越（白浜町・上富田町）

概要：田辺と古座を最短で結ぶ街道で、
林業・製炭業、行商人の往来、西国巡
礼等に利用された。街道沿いには石仏
が多く、一部石畳道も残る。明治時代
には、熊野中道とも呼ばれた。



(追) 48

名称：くまのさんけいみち 熊野参詣道

選定箇所：紀伊路—藤白坂、拝ノ峠（和歌山県海南市）、蕪坂（有田市）、糸我峠（有田市・湯浅町）、藤田町吉田（御坊市）、榎木峠（印南町）、千里の浜（みなべ町）

中辺路—南谷、鴻田、高野坂（新宮市）、殿和田（新宮市・那智勝浦町）、小盒子峠、大盒子峠、青岸渡寺～阿弥陀寺～妙法山、滝道（那智勝浦町）、大日越、耳打～渡瀬、赤木越、北郡越、長尾坂（田辺市）、岩田（上富田町）、岡坂越（上富田町・田辺市）

小栗街道一本宮～湯峯、桧葉～四辻峠～武住峠、大瀬～四辻峠、和田峠、定峠、水呑峠～草木尾坂（田辺市）

大辺路—駿田峠、二河峠、市屋峠、浦神峠（那智勝浦町）、清水峠（那智勝浦町・串本町）、袋平見、山越古道、高場平見、飛渡谷、地蔵平見、富山平見、中平見、赤瀬平見、安指平見、新田平見、雨島平見、伝次平見（串本町）、六坊浜、大平見、中の平見、上平見、スリの浜、長井坂、タオの峠、馬転坂（すさみ町）、安宅坂（すさみ町・白浜町）、仏坂、富田坂（白浜町）

小辺路一八木尾（田辺市）

伊勢路—志古（新宮市）～万歳峠（田辺市・新宮市）、大津荷（田辺市）～万歳峠（田辺市・新宮市）

概要：熊野本宮大社、熊野速玉大社、

熊野那智大社は「熊野三山」と呼ばれ、中世から多くの参詣者が詣でた。紀伊半島西岸を通る紀伊路、東岸を通る伊勢路、高野山と熊野三山を結ぶ小辺路に大別される。紀伊路は紀伊半島を横断する中辺路と海岸沿いの大辺路に分岐する。それぞれ一部が史跡「熊野参詣道」に指定され、中辺路、大辺路、小辺路、伊勢路は、世界文化遺産「紀伊山地の靈場と参詣道」の構成資産である。



(追) 54

名称：高野山参詣道こうやさんさんけいみち

選定箇所：町石道一八町坂（和歌山県かつらぎ町）

黒河道一賢堂、清水（橋本市）、青渕、わらん谷（九度山町・橋本市）、
太閤坂、戦場山、北又（九度山町）～子繼峠（高野町）、北又～黒
河峠（九度山町）～金剛峯寺奥院（高野町）

京大坂道一西郷、不動坂（高野町）

楨尾道一椎出（九度山町）～細川（高野町）

三谷坂一頬切地蔵～笠松峠、笠松峠～上天野、笠松峠～六本杉、六本
杉～上天野（かつらぎ町）

西国街道（麻生津道）一日高峰（かつらぎ町・紀の川市）、志賀（かつ
らぎ町）、梨子ノ木峠（かつらぎ町）、聖峠（かつらぎ町・高野町）
大峰道一桜峠（高野町）

女人道一摩尼山周辺～揚柳山～子繼峠～転軸山周辺、黒河口～不動口
～大門口、龍神口～相ノ浦口～大滝口、大峰口～円通寺（高野町）

小辺路一水ヶ峰、大滝～薄峠（高野町）

相ノ浦道一相ノ浦～笠松峠～相ノ浦口（高野町）

有田龍神道一旧辻の茶屋跡～新辻の茶屋跡（高野町・かつらぎ町）

概要：弘仁7年（816）に弘法
大師（空海）が真言密教の根本
道場として高野山を開いて以
降、参詣者の出発地点に応じて
「高野七口」と呼ばれる複数の
参詣道が形成された。町石道、
三谷坂、京大坂道不動坂、黒河
道、女人道は一部が史跡「高野



参詣道」に指定され、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産で
ある。

(追) 55

名称：大山道一坊領道
だいせんみち ぼうりょうみち

選定箇所：大野池入口～種原入口（鳥取県大山町）

概要：奈良時代に大山寺が創建され、本尊

として地蔵菩薩が祀られると、地蔵信仰が中国地方を中心に広く伝わり、広大な信仰圏が形成された。坊領道は、大山(大山寺)への参詣道である大山道の主要五道（横手道、川床道、坊領道、尾高道、溝口道）の一つで、大山寺領であった坊領村を経由して大山に向かう道の総称である。今回、地蔵信仰の盛行を示す「地蔵道」という道標及び一町地蔵が残されている箇所を追加する。



【写真提供：大山町観光課文化財室】

101

名称：山陰道一鎌手峠越・徳城峠越・野坂峠越
さんいんどう かまでとうげごえ とくじょうとうげごえ のさかとうげごえ

選定箇所：鎌手峠越（上ノ谷～木部郷）、六斎道向市地蔵堂～津田矢富本家、鹿田

とうげごえ かたこ しもとおだ とうぼうじうら かみとおだ たおやまごえ ふたば いちめん
峠越（片子～下遠田）、東方寺裏（上遠田）、峠山越（双葉～一面）、

おうぎはらかんもんあと ただ ひだりがやま
扇原関門跡（多田～左ヶ山）（島根県益田市）

徳城峠越一下小瀬～柳（津和野町）

野坂峠越一門林～野坂峠（津和野町）

概要：近世の山陰道は、京から丹波を経て山陰地方を通り、周防国の中郡（現・山口市）で西国街道に合流する街道である。那賀郡に接する土田から美濃郡の中心部益田までの間では、鎌手峠越、鹿田峠越、峠山越などの区間の遺存状態が良い。また、浜田藩と津和野藩が接した扇原関門跡には、土道の両側に



【写真提供：津和野町教育委員会】

両藩の境界石が残る。

徳城峠は『津和野百景図』に描かれるなど眺望景観に優れた峠である。頂上付近の茶屋からは、北側に日本海や高島、南側に青野山などが見える。

野坂峠は津和野城下町と長門国境の間を極めて近距離で繋ぐ特殊な位置にある峠道である。幕末の第二次長州征討の際には、この峠道を挟んで津和野藩と長州藩が交渉を行ったことで戦火が避けられた。徳城峠、野坂峠は大部分が史跡「山陰道」に指定されている。

102

名称：岩国往来
いわくにおうらい

選定箇所：本郷～湯の迫、郷、下畠～生見、土佐坂～坂本、松尾峠（山口県岩国市）

概要：周防国東部の主要路であり、萩藩領の山代地域と岩国領の岩国城下町、今津とを結び、特産の紙をはじめ、物資を輸送する道としてもさかんに利用された。また、寛保2年（1742）の萩藩主毛利宗広の国廻りでも利用されており、絵図にも詳細に描かれた道でもある。



岩国往来（松尾峠）

【写真提供：岩国市教育委員会】

103

名称：四国遍路道—阿波遍路道
しこくへんろみち　あわへんろみち

—土佐遍路道
とさへんろみち

—伊予遍路道
いよへんろみち

—讃岐遍路道
さぬきへんろみち

選定箇所：

阿波遍路道—那東、黒谷（徳島県板野町）、藤井寺（吉野川市）～焼山寺～宮分（神山町）、地蔵越、あづり越（徳島市）、恩山寺門前～白砂（小松島市）、

生名～鶴林寺（勝浦町）～太龍寺～岡花（阿南市）、西加茂～太龍寺（阿南市）、貝谷峠（阿南市～美波町）、小田坂峠、丹前峠（美波町）、八坂八浜（牟岐町・海陽町）、馬路峠、宍喰峠（海陽町）、佐野、白地（三好市）

土佐遍路道—宍喰峠～甲浦～白浜（高知県東洋町）、吸江～坂本（高知市）、

塙地峠（土佐市）、市野瀬～真念庵、以布利～窪津（土佐清水市）、大浦～月山神社（大月町）、深浦～松尾峠（宿毛市）

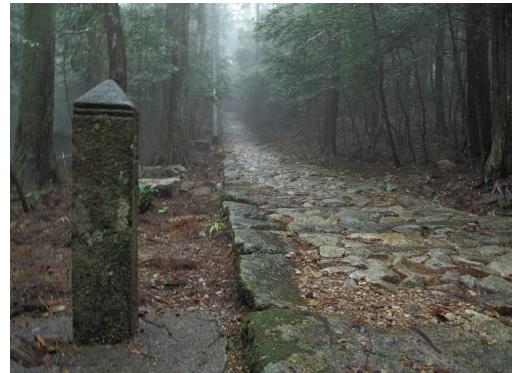
伊予遍路道—松尾坂（愛媛県愛南町）、岩渕、野井坂（宇和島市）、柏坂（愛南町・宇和島市）、松尾峠（宇和島市）、篠山周辺（愛南町・宇和島市）、龍光寺周辺（宇和島市）、歯長峠（宇和島市・西予市）、明石寺付近（西予市）、鳥坂峠（西予市・大洲市）、子持坂（大洲市）、真弓峠・下坂場峠（内子町・久万高原町）、農祖峠、鶴田峠、峠御堂、岩屋寺周辺、千本峠（久万高原町）、三坂峠（久万高原町・松山市）、仙遊寺付近（今治市）、横峰寺周辺（西条市）、三角寺・三角寺奥之院周辺（四国中央市）

讃岐遍路道—逆瀬～谷口（香川県観音寺市）、白峯寺（坂出市）～根香寺（高松市）

概要：遍路道は、空海（弘法大師）ゆかりの寺社である四国八十八ヶ所靈場をめぐる靈場巡拝の道で、四国4県にまたがり、約1,400kmにも及ぶ。

既に16世紀代には遍路という行為の存在を確認でき、江戸時代後期には、実際に遍路を経験した人々の「道中日記」や「納経帳」等から当時の札所の様子や遍路の動向が知られる。

徳島県域分の阿波遍路道では、黒谷寺道、焼山寺道、一宮道、恩山寺道、立江寺道、鶴林寺道、太龍寺道、いわや道・



阿波遍路道（鶴林寺道）
【写真提供：徳島県】



土佐遍路道（禪師峰寺道）
【写真提供：高知県教育委員会】

平等寺道、かも道、薬王寺道、東寺道、雲辺寺道、大興寺道のうち、往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「阿波遍路道」に指定されている。

高知県域分の土佐遍路道では、

ほつみさきじ
最御崎寺道、竹林寺道・禪師峰寺 ぜんじぶじ

道、青龍寺道、金剛福寺道、延光寺道、観自在寺道のうち、往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「土佐遍路道」に指定されている。

愛媛県域分の伊予遍路道では、観自在寺道、龍光寺道中道、龍光寺道灘道、篠山道、仏木寺道、明石寺道、大寶寺道、岩屋寺道、淨瑠璃寺道、仙遊寺道、国分寺道、横峰寺道、香園寺道、三角寺道、三角寺道奥之院道、雲辺寺道のうち、往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「伊予遍路道」に指定されている。

香川県域分の讃岐遍路道では、大興寺道、根香寺道のうち往時の状況が良好に残されている箇所を選定する。選定箇所の一部は史跡「讃岐遍路道」に指定されている。



伊予遍路道（岩屋寺道）

【写真提供：愛媛県教育委員会】



讃岐遍路道（大興寺道）

【写真提供：香川県教育委員会】

104

名称：八幡浜街道一夜昼峠越・笠置峠越・三机往還道
やわたはまかいどう よるひるとうげごえ かさぎとうげごえ みつくえおうかんみち

選定箇所：夜昼峠（愛媛県大洲市・八幡浜市）、笠置峠（西予市・八幡浜市）、名坂峠、大峠（八幡浜市）、伊方峠、小振峠（伊方町）

概要：西予市宇和町卯之町より岩木、笠置峠を越えて八幡浜市釜倉、八幡浜港、三机港へ向かう街道。宇和島藩主が参勤交代のため、三机から乗下船する際の参勤交代道、また、遍路のため九州から海路を経て上陸した際の遍路道としても利用された。



【写真提供：愛媛県教育委員会】

追（64）

名称：檮原街道一葦ヶ峠越・九十九曲峠越
ゆすはらかいどう にらがとうごえ くじゅうくまがりとうげごえ

選定箇所：九十九曲峠（愛媛県西予市）

概要：伊予と土佐を結ぶ道で、幕末には土佐を脱藩した志士がたどった道である。坂本龍馬の脱藩の道として葦ヶ峠～宿間が既に選定されているが、九十九曲峠越を通った可能性もある。なお、吉村寅太郎は九十九曲峠を通って脱藩した。



【写真提供：愛媛県教育委員会】

105

名称：土佐 塩の道

選定箇所：塩～塩峯公士方神社～源太坂～文代峠（高知県香美市）

概要：塩の産地である香南市赤岡町と香美市物部

町を結ぶ約30kmの往還道である。土佐湾沿いはかつて一大製塩地として栄え、この塩を運ぶための道は、「塩の道」と呼ばれていた。『長宗我部地検帳』にも「塩ノ村」という村が記され、現在も「塩」という集落が存在している。

往時の状況が良好に残されている。



106

名称：堀川

選定箇所：折尾（福岡県北九州市）～車返切貫（水巻町）～中間唐戸（中間市）

～寿命唐戸（北九州市）

概要：宝暦12年（1762）に開通

した人工運河である。灌漑用水路として周囲の田畠を潤しただけでなく、明治期には筑豊炭田から採掘した石炭の輸送路として繁栄した。最盛期の明治32年には13万艘の輸送船（川ひらた）が運航していた。

現在も遠賀川から洞海湾まで往時の流路を残している。



【写真提供：水巻町教育委員会】

107

名称：秋月街道
あきづきかいどう

選定箇所：千手宿（福岡県嘉麻市）～新八丁峠・旧八丁峠（嘉麻市・朝倉市）～秋月目鏡橋（朝倉市）

概要：中世から近世にかけての筑後国と豊前国をつなぐ街道である。長崎街道に先行する街道で、豊臣秀吉が九州平定の際に通った道として知られる。近世においては、参勤交代に利用された。宿場町の雰囲気や石畳が一部良好に残されている。



108

名称：筑後川水運
ちくごがわすいん

選定箇所：若津港（福岡県大川市）～筑後川河口（大川市・佐賀県佐賀市）

概要：筑後川は九州北部を東から西へ流れ有明海に注ぐ九州最大の河川である。筑前・筑後・肥前・豊後の境界であり、水運が古くから発達し、農業用水としても利用された。有明海は干満差が大きいため、河口に潟土が堆積しやすく、船舶の輸送を妨げる事が多かった。

明治政府が招いたオランダ人技師

ヨハニス・デ・レイケは、明治16～17年にかけて筑後川河口域を視察し、若津港一帯に導流堤を計画した。明治23年、導流堤は完成し、川の流れを速め、堆積する土砂を遠浅の河口に押し流すことで、航路を維持することに成功した。導流堤は現在もその役割を果たしており、引き潮の時だけその姿を見ることができる。



【写真提供：大川市】

(追) 69

ながさきかいどう ひみとうげごえ いびの おとうげごえ たらみち たらかいどう
名称：長崎街道一日見峠越・井樋尾峠越・多良通（多良海道）

選定箇所：矢答峠～船倉（佐賀県太良町）～山茶花茶屋～長坂～七曲～大越、小川原浦（長崎県諫早市）

概要：江戸時代初頭に佐賀藩が整備した長崎街道の第一の幹線で、諫早永昌から多良岳東側を通る有明海周りで鹿島・塩田を通り佐賀に至る。他の藩の領地を経由せずに長崎警備や出島の情報を伝達することができ、また、諫早の光江津や多良の竹崎などで海路と接続し、有明海を渡って情報を伝えることもできた。



109

ひゅうがおうかん
名称：日向往還

読み：ひゅうがおうかん

選定箇所：国界一帯～馬見原、山屋トンネル、聖橋～浜町、赤子谷石畳（熊本県山都町）、八勢～茶屋本、五里木跡～軍見坂、門前川目鑑橋～滝川（御船町）

概要：熊本県熊本市と宮崎県延岡市を結ぶ街道である。主に生活物資を運ぶための「民の道」として利用された。交流の拠点で宿場町として栄えた馬見原、同じく拠点として栄えた浜町には往時の景観が残り、石畳が随所に良好な状況で残されている。



【写真提供：山都町教育委員会】

110

名称：緑川水運
みどりかわすいん

選定箇所：津留ヶ淵道～津留ヶ淵勘場跡（山都町）～岩下地区（美里町）～鵜ノ瀬堰～導流堤（甲佐町）～熊本藩川尻米蔵跡・船着場跡・大渡津（熊本市）～緑川河口（熊本市・宇土市）

概要：熊本県中央部を西へ流れる緑川は、物資の輸送に利用された水の道である。往時の水路だけではなく、山都町の津留ヶ淵には物資を運んだ石畳の道や勘定場跡も良好に残されている。河口に近い「熊本藩川尻米蔵跡」は史跡に指定されている。



津留ヶ淵道

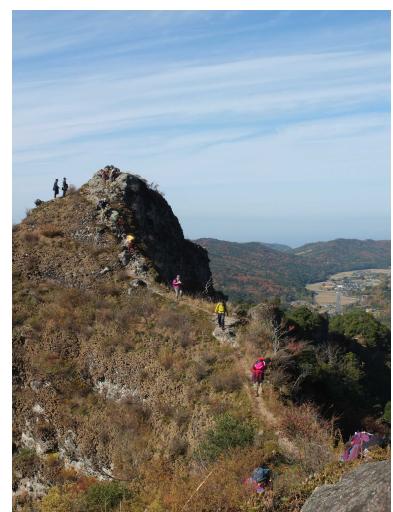
【写真提供：山都町教育委員会】

111

名称：六郷満山の峯入りの道
ろくごうまんざん みねいみち

選定箇所：宇佐神宮～御許山（宇佐市）、長安寺～天念寺～無動寺～椿堂、前田～中山仙境（豊後高田市）～大不動岩屋～岩戸寺、文殊仙寺付近（国東市）

概要：宇佐神宮を起点に険しい山道や岩場を歩いて、六郷満山の寺院や岩屋を巡り、所々で行法を行なながら、国東半島の峰々を踏破する修行の道である。峯入りの明確な記録は江戸時代になってからであるが、それ以前も行者による修行は行われていたと思われる。明治時代に峯入りは一度途絶えるが、戦後に再興され、一般の人々の信仰にも支えられて、現在も続けられている。



【写真提供：豊後高田市教育委員会】

112

名称：日向道—三国峠越
ひゅうがみち みくにとうげごえ

選定箇所：市場～内山（豊後大野市）～

三国峠～上津小野～小野市（佐伯市）
こうづおの おのいち

概要：豊後国と日向国を結ぶ交通路で、古代の官道に起源をもつと推定されている。中世、薩摩国の島津氏による豊後侵攻や、豊臣秀吉による九州平定にこの道が使用された。明治10年（1877）の西南戦争では官軍と薩摩軍が戦いを繰り広げた。沿道には今多くの台場が残っており、戦



【写真提供：豊後大野市教育委員会】

いの激しさを物語る。また、本草学者の賀来飛霞や俳人の種田山頭火などの紀行文に紹介され、多くの旅人が行き交う道でもあった。三国峠は岡・佐伯・臼杵の三藩の境界に位置するためその名があり、眺望のよい景勝地である。

（追）70

名称：豊後・肥後街道—鶴崎路
ぶんご ひごかいどう つるさきじ

選定箇所：今市（大分市）

概要：熊本藩領の豊後国鶴崎と肥後国熊本を結ぶ街道である。今市は岡藩の宿場として中川氏によって整備され、熊本藩主が通る時は岡藩御茶屋でそばが振舞われた。660mに渡り敷き詰められた平石の石畳が現存しており、途中の折れ曲がった箇所には「火除藪床」が設けられた。



【写真提供：大分市教育委員会】

113

名称：薩摩街道一東目筋

選定箇所：^{よれし}和石（宮崎市）～国見峠～岩屋野（都城市）

概要：日向国と薩摩国を結ぶ街道で、薩摩藩主の参勤交代や巡視、物資の輸送、連絡道として利用された。国見峠は島津斉彬の巡視のために作成された『御道中記』にも記載されており、現在も往時の状況を良好に残している。



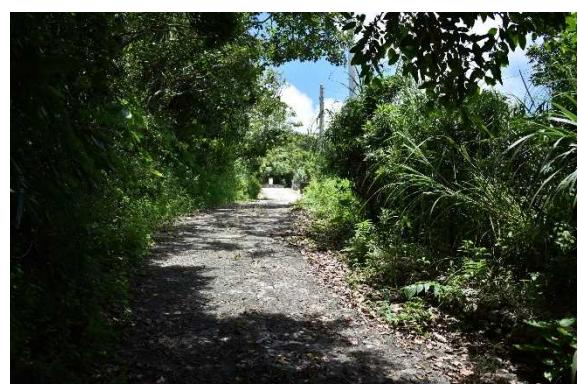
【写真提供：都城市教育委員会】

114

名称：中城ハンタ道

選定箇所：中城 城跡～伊舎堂～新垣～北上原～奥間～糸蒲（中城村）

概要：中城村内は丘陵が南北に縦断しており、その縁辺部を通る道である。沖縄本島中部の東海岸を一望することができる。道沿いには集落跡が3箇所、グスクが2箇所存在し、集落やグスクを繋いで道が成立したことを知ることができる。石畳道や土道が良好に残存しており、一部が史跡に指定されている。



【写真提供：中城村教育委員会】